

# 令和元年度 地方創生交付金対象事業

(福岡県移住支援事業・マッチング移住支援事業及び起業支援事業)

令和元年度 地方創生交付金対象事業検証シート (①推進交付金)

シート番号 ①-1

事業名		福岡県移住支援事業・マッチング移住支援事業及び起業支援事業			担当部局課	行政経営部 総合政策課	
事業概要		国が推進している東京圏からのUIJターン推進のための目玉施策として、地方創生推進交付金（移住・起業・就業タイプ）が創設され、県においても推進交付金を活用した移住支援事業について実施することとなり、県事業と連携し、移住支援金制度を創設し、東京圏からのUIJターンの促進を図るもの。					
主な取組内容 (事業費内訳)		移住支援金の交付（2人以上の世帯 1,000千円、単身世帯 600千円） （要件：東京圏（23区在住者又は23区への通勤者）からUIJターンで、県内の中小企業等（福岡県のマッチング支援サイトに登録されている）に就業若しくは県内で起業する者）※ 対象要件有					
事業決算額		0千円	交付金充当額	0千円	一般財源充当額	0千円	
事業始期		令和元年度	事業終期	令和5年度			
重要業績 評価 (KPI)①	指標	補助金の交付					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」 KPI：数値目標は地域再生計画の移住就業者数					
	目標値	移住就業者数 2019年度 7名、2021年度14名（年間）					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	計画	7人	14人	14人	14人	14人	14人
	実績	0人	—	—	—	—	—
	進捗率	0.0%	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!
	実績数値 算出方法	交付決定件数による移住就業者数の把握。			単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	国が定めた（地方創生推進交付金を活用した）対象条件が厳しいため、申請に至っていない。今後は国が要件を見直しを行うので、県と連携し要件の緩和を実施予定。			総合 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	対象要件の緩和及び事業の周知。緩和については、国に動向を把握し、福岡県と足並みを揃え、要件の緩和（要綱の改正）を行う。					
重要業績 評価 (KPI)①	今後の 取組の 方向性	移住支援金事業を実施していることを、特に東京圏の方々にPRしていく必要があるが、新型コロナウイルス感染症対策で移住相談会等のイベント開催が困難であることから、イベントに頼らないPR・周知活動を検討し実施していく必要がある。					

交付金事業の 地方創生への効果		【A】：地方創生に非常に効果的であった（全てのK P I が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる）
		【B】：地方創生に相当程度効果があった（一部のK P I が目標値を達成しなかったが、概ね成果が得られたとみなせる）
	○	【C】：地方創生に効果があった（K P I の達成状況は芳しくなかったが、事業開始前よりも取組みが改善したとみなせる）
		【D】：地方創生に対して効果がなかった（K P I の達成状況が事業開始前よりも悪化もしくは取組みが改善したと言い難い）

事業検証にかかる 委員意見（抜粋）	委員の判定状況（有効であった：6 有効とはいえない：7 判定できない：1）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績は上がっていないが、課題の把握や今後の方向性は適切であると考え。</li> <li>・県のマッチング支援サイトに登録されている県内の中小企業等は247件にとどまり、市内を勤務地とする企業はわずか3社であることから、特定企業への就業者の優遇という側面が強くなってしまっている印象を受ける。移住支援及び企業支援を目的とするならば、世帯当たりの交付金額を縮小し、より多くの移住者を支援するための枠組みを見直す必要がある。同支援サイトの登録企業数の拡大、コンテンツの質や利便性の向上などの抜本的な改善が必要である。</li> <li>・実績から有効とはいえない。就業機会の増加と共に、職住一致のメリットを積極的に打ち出す施策が必要。</li> <li>・移住先の候補として飯塚市が選択肢に入るような施策が必要。</li> <li>・国が定める要件に該当することが困難であるならば、要件の緩和等を積極的に働きかけるべき。</li> <li>・移住の経験がないため分からないが、希望職種、就職機会、賃金などが都市部と比べ少ないと感じる。</li> <li>・セッティングコーディネーター、お試し移住などの代替事業が必要。</li> <li>・交付金事業の地方創生への効果の判定がCではなく、Dであるべき。</li> </ul>	

# 令和元年度 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業

(飯塚国際車いすテニス大会を基軸としたテニスのまちづくり)

令和元年度 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業検証シート (②企業版ふるさと納税事業)

シート番号 ②

事業名	飯塚国際車いすテニス大会を基軸としたテニスのまちづくり			担当部局課	行政経営部 総合政策課		
事業概要	本市で開催される国際的なスポーツ大会である「車いすテニス大会」が、将来にわたり安定的で、かつ充実した内容のもとに継続的に開催されていくように、H28年度に創設された「地方創生応援制度（ふるさと納税）」を活用して、企業からの寄附を受付、メイン会場である筑豊ハイツテニスコート等の関係施設の維持管理や保全改修、さらには情報発信のための通信環境設備の整備を実施するもの。						
主な取組内容 (事業費内訳)	地域再生計画計上内容 ①筑豊ハイツテニスコート整備事業 (H30：なし R1:107,000千円) ②筑豊ハイツ宿泊施設整備事業 (H30:696,941千円 R1:803,824千円) ③車いすテニス大会情報発信強化事業 (H30:2,775千円 R1:210千円) この計画を実施することにより、本大会の継続開催とさらなる魅力発信が可能になり、参加選手や観客数、ボランティアの増加に繋がる。						
事業決算額	853,782 千円	寄附額	1,000 千円	一般財源充当額	852,782 千円		
事業始期	平成30年11月	事業終期	令和2年3月				
重要業績 評価 (KPI)①	指標	参加選手数					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)					
	目標値	参加選手数 基準年度：97人 目標値：100人 (3年目)					
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計
	計画	97人	97人	100人	-	197人	197人
	実績	97人	97人	100人	-	197人	197人
	進捗率		100.0%	100.0%	#VALUE!	100.0%	100.0%
	実績数値 算出方法	大会登録者数をテニス協会に確認して把握する。			単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	大会開催を4月に変更したため、他の国際大会との重なりが減り、出場可能選手が増えた。			総合 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	特になし。					
重要業績 評価 (KPI)①	今後の 取組の 方向性	開催月を見直したことで、天皇・皇后杯の下賜による認知度が上がったことにより効果があったため、引き続き同様に実施する。					

重要業績 評価 (KPI)②	指標	大会観客数						
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)						
	目標値	大会観客数 基準年度：6,200人 目標値：6,400人						
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計	
	計画	6,200人	6,200人	6,400人	-	12,600人	12,600人	
	実績	6,200人	6,200人	7,100人	-	13,300人	13,300人	
	進捗率		100.0%	110.9%	#VALUE!	105.6%	105.6%	
	実績数値 算出方法	大会観客数を実行委員会に確認して把握する。				単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した
								【B】：目標値の70%以上を達成
								【C】：目標値の50%以上を達成
							【D】：目標値の50%未満	
効果発現 要因	天皇杯・皇后杯であること、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの事前キャンプ地となったことにより、大会の認知度が上がった。				総合 評価	○	【A】：目標値を達成した	
							【B】：目標値の70%以上を達成	
							【C】：目標値の50%以上を達成	
							【D】：目標値の50%未満	
目標達成 への 課題等	特になし。							
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことについて、更なる情報発信をする。							

重要業績 評価 (KPI)③	指標	宿泊者数					
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)					
	目標値	宿泊者数 基準年度：2,015人 目標値：2,100人					
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計
	計画	2,015人	2,015人	2,100人	-	4,115人	4,115人
	実績	2,015人	2,015人	2,196人	-	4,211人	4,211人
	進捗率		100.0%	104.6%	#VALUE!	102.3%	102.3%
	実績数値 算出方法	大会期間中の1日の総宿泊者数を市内宿泊施設に確認して把握する。 (のがみプレジデントホテル、ステーションホテル、ホテルニューガイア、センチュリーホテル、筑豊ハイツ)				単年度 評価	○ 【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	天皇杯・皇后杯であること、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの事前キャンプ地となったことにより、大会の認知度が上がった。				総合 評価	○ 【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	目標達成 への 課題等	特になし。					
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことについて、更なる情報発信をする。						

重要業績 評価 (KPI)④	指標	ボランティア						
	飯塚市 総合戦略	基本目標Ⅳ：「健幸で魅力あふれるまちづくり」④新しい時代を担う地域づくりの推進 (観光入込客数 5年間で「355万人」)						
	目標値	ボランティア数 基準年度：2,000人 目標値：2,100人						
		事業開始前	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計	検証年度までの累計	
	計画	2,000人	2,000人	2,100人	—	4,100人	4,100人	
	実績	2,000人	2,000人	2,000人	—	4,000人	4,000人	
	進捗率		100.0%	95.2%	#VALUE!	97.6%	97.6%	
	実績数値 算出方法	ボランティア数を実行委員会に確認して把握する。				単年度 評価	○	【A】：目標値を達成した 【B】：目標値の70%以上を達成 【C】：目標値の50%以上を達成 【D】：目標値の50%未満
	効果発現 要因	例年通りの協力を得た。					総合 評価	○
	目標達成 への 課題等	新規ボランティアの増加に苦慮している。						
今後の 取組の 方向性	「天皇杯・皇后杯」が下賜されたことや、共生社会ホストタウンとして認定を受けたこと、南アフリカの東京パラリンピック事前キャンプ地として決定されたことなど、更なる情報発信をすることにより、テニス大会への関心を高め、ボランティアの増加を図る。 また、地元学生等の協力を得やすい体制づくりをする必要がある。							

交付金事業の 地方創生への効果	○	【A】：地方創生に非常に効果的であった（全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる）
		【B】：地方創生に相当程度効果があつた（一部のKPIが目標値を達成しなかったが、概ね成果が得られたとみなせる）
		【C】：地方創生に効果があつた（KPIの達成状況は芳しくなかったが、事業開始前よりも取組みが改善したとみなせる）
		【D】：地方創生に対して効果がなかった（KPIの達成状況が事業開始前よりも悪化もしくは取組みが改善したと言ひ難い）

事業検証にかかる 委員意見（抜粋）	委員の判定状況（有効であった：12 有効とはいえない：2 判定できない：0）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックの延期を活かし、飯塚版のWithコロナ時代のスポーツのあり方を提案することが重要。</li> <li>・コロナ禍のスポーツ大会開催のガイドライン等を参考に開催準備し、まちづくりにつなげてほしい。</li> <li>・ハード整備は安定かつ充実した大会を継続していくために必要な施策。今後も参加選手や観客から評価される水準の施設を維持していくための整備は継続していくべき。一方、「テニスのまちづくり」とはどのような状態なのかをイメージできるよう情報発信が必要。本大会を市民とテニスファンのみをターゲットとした大会ではなく、普段テニスを観戦しない人たちも巻き込み、まちづくりまで発展させるためには、施設の整備と情報発信だけでは限界があるため、本大会周辺でエンターテイメント的な要素を取り入れてはどうか。また、大会だけでなく大会以外のテニスをテーマとした各種取組みを通じて、テニスファン以外の方との接点を作り、競技との心の距離を縮める取組みも大切。</li> <li>・大会の認知度向上とともに、数値化は難しいが飯塚市のイメージアップは計り知れない。まちづくりに積極的に活用できるコンテンツ。新しくなった筑豊ハイツを積極的にPRが必要であり、ボランティアが支えるイヅカ方式を大会以外でも応用できると素晴らしい。</li> <li>・「主な取組内容（事業費内訳）」とKPI達成の因果関係について、踏み込んだ説明が必要だと考えます。</li> <li>・ボランティア数の分析が不十分です。とくに、「主な取組内容（事業費内訳）」③車いすテニス大会情報発信強化事業との相関についての分析を加えるとともに、それを踏まえた次年度への改善方針が必要。</li> </ul>